

文 教 委 員 会 資 料

所管事務の調査（報告）

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

資 料

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

参考資料

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

令 和 6 年 2 月 9 日
教 育 委 員 会 事 務 局

1 これまでの経過

(1) 令和4年度までの経過

川崎市八ヶ岳少年自然の家は昭和52年の開設以来、延べ約80万人の子どもたちが親子世代にわたって自然教室等で利用しており、多くの市民にとって共通体験の場となっています。

一方、施設及び設備の老朽化が進行しているため、令和2年から抜本的な老朽化対策の検討に着手し、調査を進める中、令和4年度に敷地が土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等に指定されていることを確認しました。

H24年11月	「土砂災害警戒区域の指定」について長野県・富士見町が地域説明会を実施し、少年自然の家の指定管理者が出席し、当該指定管理者から報告を受けた。
H25年3月	「土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域」の指定
R2年6月	施設の劣化調査、整備方法の検討に着手
R2年7月	指定管理者の総括評価シートに土砂災害警戒区域への指定について記載
R4年4月	「八ヶ岳少年自然の家再編整備基本計画策定支援等業務委託」着手
R4年6月	本委託における調査で、土砂災害特別警戒区域等の指定を受けていることを確認
R4年10月	市長報告：「自然教室の中止・延期の考え方」の策定 など
R5年3月	市長報告：再編整備案、概算事業費、今後の方向性を確認 など
R5年6月	文教委員会報告

(2) 令和5年6月文教委員会での報告

令和5年6月の文教委員会において、利用状況や再編整備案の検討状況、土砂災害特別警戒区域等に対する経過と対応について報告するとともに、今後の方向性として、自然教室の継続実施を前提に、自然教室の内容の整理を行うとともに、長期的な安全性の確保を考慮し、当該地での再編整備の妥当性や、他施設（国立・公立の自然の家・民間施設等）活用の可能性など、自然体験の場を継続的に確保する手法について、幅広く検討すること等を報告しました。

【令和5年6月文教委員会で示した今後のスケジュール（案）】

R4（2022）年度	R5（2023）年度	R6（2024）年度	R7（2025）年度以降
現在の指定期間（R3～R7年度）			
基本計画策定支援等業務委託			
自然体験の場を継続的に確保する手法について幅広く検討		方向性の具体化に向けた検討	
とりまとめ		方向性の	

2 検討方法

(1) 自然教室の継続実施を踏まえた内容の整理

かわさきの子どもたちの現状や自然教室の目的等を整理するとともに、児童生徒・保護者及び校長へのアンケートを行い、自然教室の意義や教育効果を確認し、「自然教室実施に当たっての視点」を作成しました。

かわさきの子どもたちの現状	自然教室の目的と教育効果	関係者への意見聴取
人間関係の構築の経験が少ない又は困難を抱える子どもの増加 →多様な他者と協働しながら、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手として必要となる資質・能力の育成 →自然や多様な文化・人との触れ合いなどの「直接体験」を通じた教育の充実	「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、より良い人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」を目的として実施	児童生徒・保護者及び校長にアンケートを行い、児童生徒の印象に残っている思い出や保護者を感じる児童生徒が成長したと思うこと、校長が自然教室で児童生徒に身に付けさせたい力や教育効果が高い体験活動について聴取

「自然教室実施に当たっての視点」を作成

- 視点1 自然体験活動の実施（野外炊飯、キャンプファイヤー、登山、スキー、星座観察等）
自然の中で友人と協力しながら、達成感を味わえる様々な「直接体験」ができる活動を実施
- 視点2 集団宿泊活動の実施
集団の中でルールを守り、役割分担をしながら「協調性」「規律性」「責任感」を育み、より良い人間関係づくりができる集団宿泊活動を実施
- 視点3 活動時間の確保（2泊3日、移動時間3～4時間以内）
十分な体験活動が実施できるよう活動時間を確保するための宿泊日数と移動時間を確保
- 視点4 宿泊施設の安全性の確保（各種ハザードマップの確認等）
児童生徒の安全を最優先にした宿泊施設の選定
- 視点5 保護者の費用負担（現状と比較して過度な負担とならないよう配慮）
保護者の負担が大幅に増加することがないよう配慮
- 視点6 教職員の業務負担（教職員の働き方・仕事の進め方改革に配慮）
教職員の過度な業務負担とならないよう配慮

(2) 幅広い検討の実施

現地での再編整備、富士見町内での移転整備、他施設の活用の3案について、「自然教室実施に当たっての視点」に基づき比較を行い、課題等を把握するとともに、実現可能性のある手法の絞り込みを進めました。

I 現地での再編整備	II 富士見町内での移転整備	III 他施設の活用（他自治体・国公立・民間）
土砂災害警戒区域等の指定の状況を考慮して、施設の配置や活動エリアを検討し、現地での再編整備の可能性を確認	40年以上にわたり、富士見町で実施してきた実績とノウハウを継承するため、富士見町内での移転整備の可能性を確認	市保有の施設での実施ではなく、他自治体の施設、国公立の施設、民間の施設を活用した実施の可能性を確認

「自然教室実施に当たっての視点」に基づく比較検討により、実現可能性のある手法を絞り込み

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

Ⅲ 他施設の活用

(1) 周辺自治体の検討

周辺9県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県）の観光担当課に確認したところ、千葉県及び山梨県から候補施設の回答がありました。

【検討結果】

今後、受入れの可能性など、更に他自治体への照会やアプローチを行い、検討を進める。

(2) 遠方自治体の検討

友好都市やこれまで交流のあった都市など、本市と関係のある6自治体（北海道中標津町、岩手県花巻市、富山県氷見市、和歌山県古座川町、島根県益田市、宮崎県）を抽出し、机上でのシミュレーション及び宮崎県東京事務所へのヒアリングを行いました。

【検討結果】

宿泊地の安定的な確保が確約できないこと、活動時間が実質2日目に限定されること、新たに宿泊費用や飛行機や新幹線等の移動費用が発生することなどの課題がある。

(3) 国立・公立宿泊施設の検討

関東周辺の13の国公立施設に施設の予約状況等のヒアリングを行いました。

【検討結果】

全校が同一施設を利用することは困難であり、公立施設については設置自治体の住民利用が優先されるなど、安定的な確保が確約できなく、新たに宿泊費用が発生するという課題があるものの、複数の施設に分散して実施できる可能性があることから、今後、更に施設調査を行うとともに、その周辺環境等の状況や詳細な利用条件の確認等の検討を進める。

(4) 民間宿泊施設の検討

バスで宿泊施設までのおおむね3～4時間程度の範囲内の宿泊施設（371施設）を対象に調査を行い、教育旅行の受入れの可否、宿泊施設及び周辺での体験活動（春～秋：登山等、野外炊飯、キャンプファイヤー、星座観察 冬：スキー、星座観察）の有無、バリアフリーの状況、ハザードマップ等の確認を行った結果、計6施設を抽出しました。

【検討結果】

民間のホテル等の利用になるため、安定的な確保が確約できなく、新たに宿泊費用が発生するという課題があるものの、複数の施設に分散して実施できる可能性があることから、今後、更に施設調査を行うとともに、その周辺環境等の状況や詳細な利用条件の確認等の検討を進める。

4 各案のまとめと検討の方向性

各案の検討状況を整理するとともに、今後の検討の方向性等をまとめると次のとおりとなる。

案		状況	「自然教室実施に当たっての視点」の適否	検討の方向性と主な検討事項
Ⅰ 現地での再編整備	(1) イエローゾーンでの整備	イエローゾーンでの整備は、長期的な安全性の確保に課題がある。	「安全性の確保」の視点に適合しない。	【今後の検討から除外】
	(2) レッドゾーン・イエローゾーン以外での整備	自然体験活動はイエローゾーンで実施するものとして整理をすれば、実施可能となる。	現段階で適さない視点は無い。	【更に検討を進める】 ○費用等を含めた詳細な整備内容の検討 など
Ⅱ 富士見町内での移転整備		整備の可能性はあるが、土地の詳細な状況の調査が必要となる。	現段階で適さない視点は無い。	【更に検討を進める】 ○土地の詳細な状況の調査 ○費用等を含めた詳細な整備内容の検討 ○現所有者との調整 など
Ⅲ 他施設の活用	(1) 周辺自治体	千葉県及び山梨県から候補施設の回答があった。	現段階で適さない視点は無い。	【更に検討を進める】 ○Ⅲ(3)(4)に同じ。
	(2) 遠方自治体	移動時間が長く、活動の中心は実質2日目のみとなる。	「活動時間の確保」の視点に適合しない。	【今後の検討から除外】
	(3) 国立・公立施設	複数の施設を利用すれば、実施の可能性がある。	現段階で適さない視点は無い。	【更に検討を進める】 ○可能性のある自治体・施設等の更なる調査 ○施設や周辺環境等の状況や詳細な利用条件等の確認 ○学校との調整（モデル実施等を含む。） など
	(4) 民間施設の活用	複数の施設を利用すれば、実施の可能性がある。	現段階で適さない視点は無い。	

- ・Ⅰ(1)及びⅢ(2)は、「自然教室実施に当たっての視点」に適合しないため、今後の検討から除外する。
- ・その他の案は、自然教室の持続可能性、宿泊施設の安全性、市や保護者の費用負担など、様々な面から更に検討を進め、令和6年度末に中間報告、令和7年度末頃に検討結果をとりまとめる。
- ・各案の環境や条件に併せ、自然教室の内容や実施方法等を検討する。
- ・八ヶ岳少年自然の家を利用している学校や青少年団体等の状況等を踏まえ、検討を進める。

参考資料

- 1 児童生徒・保護者への意見聴取
- 2 学校への意見聴取
- 3 調査を行った自治体・施設一覧

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

1 児童生徒・保護者への意見聴取

(1) 児童生徒・保護者へのアンケート調査（令和3年2月実施）

小学6年生、中学2年生(各1,400サンプル) 及び保護者（2,800サンプル）に、アンケートを行った。

ア 児童生徒

- 問1) 川崎市八ヶ岳少年自然の家のことをどのように知りましたか。
- 問2) 川崎市八ヶ岳少年自然の家をどのように利用したことがありますか。
- 問3) 川崎市八ヶ岳少年自然の家を利用した理由を教えてください。
- 問4) これまでの川崎市八ヶ岳少年自然の家の利用回数を教えてください。
- 問5) 川崎市八ヶ岳少年自然の家を利用した時に、印象に残っている良い思い出を教えてください。
- 問6) 川崎市八ヶ岳少年自然の家を利用した時に、印象に残っている直してほしいことを教えてください。
- 問7) 川崎市八ヶ岳少年自然の家に、今後も大切にしてほしいことがあれば教えてください。
- 問8) 川崎市八ヶ岳少年自然の家が主催するイベントがあるのを知っていますか。
- 問9) 今後、川崎市八ヶ岳少年自然の家を利用するとしたら、どのようなメンバーで行きたいですか。
- 問10) 今後、川崎市八ヶ岳少年自然の家を利用するとしたら、どのくらいの頻度で利用したいですか。
- 問11) 今後、八ヶ岳少年自然の家を利用するとしたら、何泊したいですか。

イ 保護者

- 問1) あなたは、これまでに自然教室や林間学校、臨海学校などの集団宿泊活動に参加したことがありますか。
- 問2) 問1で「ある」と回答した方にお聞きします。集団宿泊活動に参加した際の施設は川崎市八ヶ岳少年自然の家でしたか。
- 問3) お子様は、川崎市八ヶ岳少年自然の家を利用したことがありますか。
- 問4) お子様は川崎市八ヶ岳少年自然の家をどのように利用したことがありますか。
- 問5) お子様が川崎市八ヶ岳少年自然の家における集団宿泊活動に参加するにあたり、期待していたことについてあてはまるものをお選びください。
- 問6) お子様が川崎市八ヶ岳少年自然の家における集団宿泊活動に参加した結果、成長したと思うことについてあてはまるものをお選びください。
- 問7) 今後も、お子様に川崎市八ヶ岳少年自然の家を利用させたいですか。その場合、どのような形で利用させたいか、あてはまるものをお選びください。
- 問8) 家族での利用にあたり、川崎市八ヶ岳少年自然の家で何をやりたいか、あてはまるものを全てお選びください。

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

(2) 主なアンケート結果

ア 児童生徒へのアンケート

問5) 印象に残っている思い出 (小学生)

- 第1位 野外炊飯・バーベキュー (67%)
- 第2位 豊かな自然環境 (54%)
- 第3位 星座・星空観察 (43%)
- 第4位 キャンプファイヤー (42%)

問5) 印象に残っている思い出 (中学生)

- 第1位 星座・星空観察 (60%)
- 第2位 スキー体験 (57%)
- 第3位 豊かな自然環境 (46%)
- 第4位 野外炊飯・バーベキュー (34%)

問7) 今後も大切にしてほしいこと (小学生)

- 第1位 周辺の森等の自然環境 (77%)
- 第2位 火が使える環境 (50%)
- 第3位 夜間の暗さ (34%)
- 第4位 安全・防犯面 (31%)

問7) 今後も大切にしてほしいこと (中学生)

- 第1位 周辺の森等の自然環境 (68%)
- 第2位 夜間の暗さ (43%)
- 第3位 スキー体験 (30%)
- 第4位 火が使える環境、安全・防犯面 (26%)

イ 保護者へのアンケート

問6) 成長したと思うこと (小学生の保護者)

- 第1位 他人を思いやる行動がとれる「協調性」 (52%)
- 第2位 ルールを守ることができる「規律性」 (49%)
- 第3位 最後までやり遂げられる「責任感」 (42%)

問6) 成長したと思うこと (中学生の保護者)

- 第1位 ルールを守ることができる「規律性」 (53%)
- 第2位 他人を思いやる行動がとれる「協調性」 (47%)
- 第3位 最後までやり遂げられる「責任感」 (42%)

- 「印象に残っている思い出」は、野外炊飯や星空観察など自然活動や自然そのものに対するものが大部分で、その他「みんなで泊まって過ごしたこと」等、自然教室自体が印象に残ったという意見も見られた。
- 「今後も大切にしてほしいこと」は、自然環境、火の使える環境、夜間の暗さが多くを占めた。
- 保護者からは、「協調性」「規律性」「責任感」が身について成長したと思うとの意見が多く見られた。

2 学校への意見聴取

(1) 学校へのアンケート調査（令和5年9月実施）

小学校114校、中学校52校の校長に、アンケートを行った。

問1) 自然教室を通して子どもたちに身に付けさせたい力は何ですか。

問2) これまで実施した自然教室を通して子どもたちが成長したと思ったことはどんなことですか。

問3) 自然教室において、教育効果が高いと考えられる体験活動は何ですか。

問4) これまでの自然教室で実施していないものでも、教育効果が高いと考えられる体験活動がありましたら、理由と合わせてお答えください。

問5) 自然教室の実施時期として、適切と思われる実施時期は何月ですか。

問6) 問5で回答を選択した理由を教えてください。

問7) 最適な宿泊日数と考える日数は何日ですか。

問8) 問7で回答を選択した理由を教えてください。

問9) 春から秋かけて実施する自然教室について、許容できる保護者負担はいくらだとお考えですか。

問10) 冬に実施する自然教室について、許容できる保護者負担はいくらだとお考えですか。

問11) 問9又は問10で回答を選択した理由を教えてください。

問12) 八ヶ岳少年自然の家以外の施設を利用することとなった場合、選択できない移動手段はありますか。

問13) 八ヶ岳少年自然の家以外の施設を利用することとなった場合、学校から宿泊施設までの移動時間は何時間まで許容できますか。

問14) 八ヶ岳少年自然の家以外の施設を利用することとなった場合、実施場所の選定や宿泊施設や交通手段の手配等についてお答えください。

問15) 自然教室において、八ヶ岳少年自然の家以外の施設を利用することとなった場合、留意すべき点がありましたらお答えください。

問16) その他自然教室について御意見がございましたらお答えください。

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

(2) 主なアンケート結果

問1) 自然教室で身につけさせたい力は？(小学校)

- 第1位 他人を思いやる行動がとれる「協調性」(91%)
- 第2位 ルールを守ることができる「規律性」(66%)
- 第3位 最後までやり遂げられる「責任感」(49%)

問1) 自然教室で身につけさせたい力は？(中学校)

- 第1位 他人を思いやる行動がとれる「協調性」(87%)
- 第2位 ルールを守ることができる「規律性」(79%)
- 第3位 最後までやり遂げられる「責任感」(48%)

問3) 自然教室で教育効果が高いと考えられる体験活動は？
(小学校)

- 第1位 野外炊飯・BBQ(95%)
- 第2位 登山・ハイキング(84%)
- 第3位 キャンプファイヤー(81%)

問3) 自然教室で教育効果が高いと考えられる体験活動は？
(中学校)

- 第1位 スキー(88%)
- 第2位 星空・星座観察(65%)
- 第3位 キャンプファイヤー(63%)

問7) 最適な宿泊日数⇒2泊3日(90%)、1泊2日(9%)

(小学校・中学校)

問9、問10) 許容できる保護者負担⇒春～秋は1万円未満(54%)、5,000円未満(29%)、冬は3万円未満(83%)、4万円未満(17%)(※現状とほぼ同額帯)

問12) 引率する際に難しい移動手段⇒飛行機(79%)、船(75%)、新幹線(43%)

問13) 許容させる片道の移動時間⇒3時間以内(61%)、4時間以内(36%)

○「自然教室で身につけさせたい力」は、「協調性」「規律性」「責任感」で、保護者のアンケート結果とおおむね一致

○「教育効果の高い活動」は、野外炊飯、スキー、キャンプファイヤー、星空観察等で児童生徒アンケートとおおむね一致

○ 宿泊日数は小中学校ともに2泊3日が最適、保護者の費用負担は現状維持、移動時間は3時間以内が最適などの回答があった。

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

3 調査を行った自治体・施設一覧

(1) 周辺自治体

※概算費用は、児童生徒1人当たりの宿泊料金、食事料金、活動費、バス等の費用の合計額
(現状では小学校は約12,000円、中学校は約33,000円) 教育委員会調べ

所在地	移動時間	定員	概算費用	春～秋の活動	冬の活動	状況
千葉県内	約1時間半	300人程度 (分散宿泊)	約4万円	登山、溪谷散策等	—	付近に野外活動施設がなく野外活動施設まで1時間半かかる。
山梨県内	約2時間半	500人程度	春～秋：約4万円 冬：約6万円	登山、カヌー体験等	スキー	スキー場の受入れは20校程度が限度

(2) 遠方自治体

所在地	移動時間	定員	概算費用	春～秋の活動	冬の活動	状況
北海道中標津町	約6時間	100人程度	約6万円	登山等	—	・宿泊地の安定的な確保が確約できない。 ・移動時間が長く、活動は実質2日目中心となる。
岩手県花巻市	約7時間	200人程度	約3万円	川遊び等	—	
富山県氷見市	約6時間	300人程度	春～秋：約3万円 冬：約6万円	登山等	スキー	
和歌山県古座川町	約8時間半	—	約5万円	ハイキング等	—	
島根県益田市	約6時間	250人程度	約5万円	溪谷散策等	—	
宮崎県	約7時間	200人程度	約4万円	登山等	—	

(3) 民間宿泊施設

所在地	移動時間	定員	概算費用	春～秋の活動	冬の活動	状況
群馬県内	約3時間半	160人程度	約4万円	登山等	—	宿泊地の安定的な確保が確約できない
群馬県内	約3時間半	200人程度	約6万円	—	スキー	
群馬県内	約3時間半	1000人程度	約7万円	—	スキー	
山梨県内	約2時間半	500人程度	春～秋：約4万円 冬：約6万円	登山、カヌー体験等	スキー	
山梨県内	約2時間半	300人程度	約3万円	登山等	—	
長野県内	約4時間	400人程度	春～秋：約4万円 冬：約5万円	ハイキング等	スキー	

八ヶ岳少年自然の家の再編整備及び自然教室の方向性の検討状況について

(4) 国立・公立施設

所在地	施設名称	移動時間	定員	概算費用	春～秋の活動	冬の活動	状況
福島県	国立磐梯青少年交流の家	約 4 時間	450人程度	春～秋：約2万円 冬：約4万円	登山等	スキー	冬季数校程度の空きあり
福島県	国立那須甲子青少年自然の家	約 3 時間半	400人程度	春～秋：約2万円 冬：約3万円	登山等	スキー	春10校、冬10校程度の空きあり
茨城県	茨城県立さしま少年自然の家	約 2 時間半	300人程度	約2万円	登山等	—	冬季空きあり
埼玉県	埼玉県立名栗げんきプラザ	約 3 時間	200人程度	約2万円	ハイキング等	—	冬季空きあり
千葉県	千葉県立東金青少年自然の家	約 2 時間	200人程度	約2万円	ハイキング等	—	冬季空きあり
千葉県	千葉県立君津亀山青少年自然の家	約 2 時間	300人程度	約2万円	川遊び、森探検等	—	冬季空きあり
千葉県	習志野市立鹿野山少年自然の家	約 2 時間	200人程度	約2万円	登山等	—	3 月空きあり
神奈川県	神奈川県立愛川ふれあいの村	約 1 時間半	450人程度	約2万円	登山等	—	春冬あわせて10校程度空きあり
神奈川県	神奈川県立足柄ふれあいの村	約 1 時間半	400人程度	約2万円	登山等	—	春冬あわせて30校程度空きあり
山梨県	調布市立八ヶ岳少年自然の家	約 3 時間	300人程度	春～秋：約2万円 冬：約3万円	登山、牧場見学等	スキー	冬季空きあり
長野県	国立信州高遠青少年自然の家	約 3 時間半	300人程度	春～秋：約2万円 冬：約3万円	登山等	スキー	冬数校の空きあり
長野県	板橋区立少年自然の家八ヶ岳荘	約 3 時間	450人程度	春～秋：約2万円 冬：約5万円	登山等	スキー	2 月一部空きあり
静岡県	三島市立箱根の里	約 2 時間半	250人程度	約2万円	ハイキング等	—	冬季空きあり